

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	沖縄県・竹富町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	竹富島・黒島の未来を築く活性化プラン		
4 実施計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 30 年度		
5 実施計画の概要			
<p>竹富町ではこれまでに「竹富町竹富島歴史的景観保全地区の保全に関する基本計画（61年11月策定）」および「竹富町歴史的景観形成地区保存条例（61年3月策定）」、「竹富町景観計画（平成25年7月策定）」並びに「竹富町景観条例（平成25年7月策定）」に基づき、文化遺産の保全・継承、および活用した地域づくりに取り組んできた。他方で地域住民の暮らしは、近代化と移住者の増加とで急激に変容しており、文化遺産の適切な継承への懸念が生じている。そこで、地域住民が、地域の文化遺産を暮らしの一部として適切に継承し、活用することで南の島の未来を描き、創り出す力をもつことができる養成の仕組みの構築が重要であるとし、そのためにとくに竹富島をモデル地域とし必要と考えられる3年間で下記の取組みを行う。29年度においては、過疎化が進み、人口が減少しつつある黒島においても下記に示す「黒島活性化プラン」に取組み、地域の文化遺産である旧正月大綱引きを正しく継承することを目指す。</p> <p><竹富町・南の島の未来を築くヘリテージマネージャー養成計画> <平成28年度> テーマ：民家づくり</p> <p>(1) 竹富島の伝統的な自然共生の暮らし方について調査・分析（聞きならいカフェによる聞きならい：聞き書きの島言葉）の実施（聞きならい3回・カフェ5回）、さらには調査の進捗管理および内容のための検討会をおこなった。成果として、「竹富島ごよみ」を作成した。</p> <p>(2) 先行事例の視察：与那原（12月末に沖縄瓦工場の視察）</p> <p>(3) 学識経験者と連携し、建材の確保や建築に関する職人育成や結いの再生などをテーマとしたユツツル編みワークショップ（5日間）を行った。</p> <p>(4) 当該実行委員会が中心となり、地域住民を対象にして「たけとみ すまいの学校」を3回実施した。</p> <p>(5) 観光客や竹富島ファンを対象としたホームページを作成した。</p> <p><29年度> テーマ：住まい方・しつらえ</p> <p>(1) 伝統的な暮らしを支える技術に関する調査 各種座敷の使い方について、日常生活及び祝祭・神事・先祖に関連した用途の変化やしつらえについて、専門家と地域住民有志が中心となって分析・整理をおこない、「竹富島ごよみ」と将来的に「すまいの学校」の教科書として使用できる「竹富ふあな一」作成を目指す。</p> <p>(2) 専門家に監修をしてもらいながら、111件の保存物件の家屋構成に加え、家の中のしつらえ等をテドゥンムニで記録をした、「たけとみ すまいのカルテ」を作成する。</p> <p>(3) 「たけとみ すまいの学校」の実施 第1回 村田信夫「島の屋根の伝統的な作り方（仮）」 第2回 石垣金星「竹富島の建材調達（仮）」</p> <p>(4) ワークショップを通して、伝統技術を学ぶ。</p> <p>(5) 28年度に作成したホームページに加え、SNSを開設し、情報をタイムリーに発信できる仕組みを構築する。</p> <p><30年度> テーマ：民芸・古謡・遊び</p> <p>(1) 3年間の調査結果をまとめ、「すまいの学校」の教科書となり得る「竹富ふあな一」の製本。</p> <p>(2) 「たけとみ すまいのカルテ」の作成を完了</p> <p>(3) 家造りの知識を以て、伝統家屋を作成し、伝統的な落成の儀式を行う。</p> <p>(4) 竹富すまいの学校及びワークショップの実施</p> <p>(5) 竹富まちなみリーダーの認定</p> <p><黒島文化遺産活用プラン> 竹富町にある黒島は「牛の島」として知られ、牧草地の広がる平坦な島である。町指無形文化財を多く抱える芸能の盛んな島であるが、島の人口が少なく行事の際には島民だけではなく、島外にすむ黒島出身者で作られている黒島郷友会等の協力を得ながら、伝統行事を継承している。その中で、黒島の伝統行事の中でも中核となる旧正月の綱引きには、毎年多くの郷友が黒島に帰省をし、行事の継承・保存をしようと努力をしている。さらに、近年では八重山地方のうち、黒島だけで行われる旧正月の綱引きを見学する為に多くの観光客も訪れるようになっていたため、人口減少で悩む島の活性化の一つの方法として平成29年度において下記の整備事業を行う。</p> <p><平成29年度> (1) 元来使用されていた、綱引きの衣装を有識者の助言のもと伝統のスティナに改め、旧正月の行事を正しく後世に継承する。</p>			
6 実施体制			
<p><南の島の未来を築くヘリテージマネージャー養成計画> 地縁団体法人竹富公民館が主体となって本実施計画に係る全体の企画・実施調整を行い、竹富町教育委員会が補助事業の調整を行う。主な担当主体・役割は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町教育委員会：各補助事業における文化財の取扱い等に関する指導・助言 ・竹富島未来づくり実行委員会：当該補助事業の実施団体（構成団体：地縁団体法人竹富公民館執行部・まちなみ調整委員会） <p><黒島文化遺産活性化プラン> 黒島公民館が主体となって、本実施計画に係る全体の企画・実施調整を行い、竹富町教育委員会が補助事業の調整を行う。主な担当主体・役割は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町教育委員会：各補助事業における文化財の取扱い等に関する指導・助言 ・黒島公民館：当該補助事業の実施団体 			

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 3,425 千円	平成29年度申請額： 竹富4,407 千円 黒島1,311
(2) 実施事業の概要		竹富島の住まいを題材とした文化遺産の継承と、黒島の旧正月大綱引き行事の衣装の新調による、黒島文化の正しい継承を行う。	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p><竹富町・南の島の未来を築くヘリテージマネージャー養成計画></p> <p>竹富島重伝建地区を舞台に1年毎の決められたテーマに沿って事業を行う事で、事業終了後には伝統的な家屋（アナブリーダーもしくは茅家程度）を伝統的な工法で建てられるだけの知識を得ることができる。実際に伝統的な工法で家屋を建て、古式に則った祭事と伝統食で家屋の落成を祝い、その家屋で季節ごとの住まい方や古謡等の文化を伝承できるようになることを最終目標に設定している。</p> <p>1年目には建築技術等、2年目で住まい方等を学ぶ一方、建築場所等の検討や実践的な屋根組の練習を行い、3年目に集大成として学んだ技術で家屋を建てるスケジュールを想定している。</p> <p>伝統家屋の詳細な知識を得るために、保存物件111件（御嶽1件を除く）の家屋について、家屋の構成等に加え、家の中の装飾・儀式用什器、住まい方を1件ずつ竹富方言で記録をし、カルテ形式で残す。平成30年度終了後に111件すべての保存物件のカルテ化が終了するようにする。</p> <p>3年を通してワークショップと「たけとみすまの学校」に参加し、竹富文化を継承する知識を得た担い手をヘリテージマネージャーとして制度化し、「まちなみリーダー認定書」を修了証書として交付する。まちなみリーダー認定者が平成30年度の事業終了時に15名になることを目標とする（3年間継続してすべての事業に参加できる50歳未満の人を考えると認定者が15名程度と想定されるため。50歳以上は、方言等を理解できるため、指導する側にまわってもらう。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 島暦の配布部数（1000部×2年の作成を予定）やfacebookのいいねの数を1000いいねを（一日平均20人の閲覧を考えているが、いいねを押す人は1日あたり3名程度の見込み）目標として作成し、情報発信の効果を把握し、他地域への情報発信の戦略を構築する。 ワークショップ参加者や島民へ、本事業についてのアンケートを実施し、竹富島の文化遺産についての認識を調査する。なお、3年を通してワークショップ参加者は、のべ180名程度、たけとみすまの学校の受講者は、のべ180名を予定している。 <p><黒島活性化プラン></p> <p>過去において、お年寄りの多い過疎化をへて継承されてきた旧正月綱引き行事は、経済的に厳しい面もあり昔の装束を継承できずに今日に至っている。有識者からのハッピーの着用は間違っているという指摘を踏まえ、今事業の活用により昔の装束を再現し、旧正月の行事の有り様と文化の心を正しく継承する。</p> <p>綱引きは、八重山地方で黒島のみが行う旧正月行事であり、過疎を乗り越えて繋いできた歴史ある行事である。昨今では、旧正月綱引き行事を鑑賞するために、わざわざ黒島を訪れる観光客もおり、観光面でも新たな情報発信ができる可能性がある。今回の事業で、衣装を整備することと並行して、行事前に舞踊練習等を行い、行事を正しく継承していく取組も併せて行う。舞踊の練習には、29年度においては、島在住の若年者10名程度を対象に取組をおこない、事業終了後の30年度には、島外に住む郷友会にも取組を波及させていく。これらの取組により、綱引きに訪れる島内外の参加者を増やし、30年度の旧正月には参加者が200名から300名に100名増加することを目指す。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本事業の実施により、地域住民による意識および知識の向上、さらには構想および計画策定等に資する人材や体制づくりを行い、完了年度を目途に「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の体制・認定を目指す。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	竹富町教育委員会社会文化課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	まちなみリーダー認定者数 (事業終了後に伝統的な家造り・住まい方等の文化遺産について指導することができる人)			関連事業:	②⑥	
目標値 1 :	平成 28 年度		0 (人)	⇒	平成 30 年度 15 (人)	
設定根拠 1 :	3年間を通して、すまいの学校・ワークショップに参加し、文化遺産についての知識を身に着けた人数 (50歳未満の若い世代の島民のうち、学生を除き3年間継続して事業に参加できる人数)					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(人)	(人)	0 (人)	(人)	(人)	(人)	
		0%				
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	保存物件家屋に関するすまいのカルテ作成を通じて、伝統家屋に住むことや島に暮らすことに誇りを持つ住民の割合			関連事業:	⑤	
目標値 2 :	平成 28 年度		0 (%)	⇒	平成 30 年度 70 (%)	
設定根拠 2 :	竹富島重伝建地区の保存物件111件 (御嶽1件を除く) について、伝統的な住まい方や家屋についての記録を竹富方言 (テドゥンム) で作成することで、地域の良さを再認識し、地域に誇りを感じる。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(%)	(%)	0 (%)	(%)	(%)	(%)	
		0%				
目標区分 3 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	カレンダー・竹富ふぁな一等の調査結果を享受し、竹富島の文化遺産を島外へ広報することができる島民の数			関連事業:	①③④	
目標値 3 :	平成 28 年度		0 (人)	⇒	平成 30 年度 300 (人)	
設定根拠 3 :	年長者からの聞き取り調査 (聞きならいカフェ) や暮らし方・建物についての調査結果を反映させ、毎年カレンダーを作成するとともに、30年度に集大成として竹富ふぁな一等を作成する。その間の情報は、HPやSNSを通して発信していく。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(人)	(人)	0 (人)	(人)	(人)	(人)	
		0%				
目標区分 4 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 4 :	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 4 :	伝統衣装へ装束を改めた後の旧正月大綱引き行事への参加人数を100人増に設定する			関連事業:	⑦⑧	
目標値 4 :	平成 29 年度		200 (人)	⇒	平成 30 年度 300 (人)	
設定根拠 4 :	瀕崩的に使用している近代的な大和式ハッピーを昔のスティナに戻し、伝統行事を正しく伝えることで、興味を持ち参加する島民や郷友会の人数が増加する。					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	

事業④：	竹富島における伝統的な自然共生の暮らし方 (地域生態システム) と技術に関する調査 その2	実施団体：	竹富島未来づくり実行委員会				
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度				
事業概要：	竹富島の文化遺産である伝統的な暮らし・屋敷内のしつらえについて調査をおこない、成果物として専門家の協力の下、すまいの学校の教科書となり得る「竹富ふぁな一」を作成し、島民全戸及び教育機関に配布することによって、島民が調査結果を享受する。						
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	調査結果を享受し竹富島の文化遺産を島外へ広報することができる島民の人数						
目標値：	平成 28 年度	0 (人)	⇒	平成 30 年度	300 (人)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	(人)		(人)	0 (人)		(人)	(人)
事業⑤：	文化遺産を活用した具体的なマネジメント方法 検討(調査)	実施団体：	竹富島未来づくり実行委員会				
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度				
事業概要：	111件の保存物件を対象に家屋構成・しつらえ・住まい方等を竹富方言(テドゥカム)で記録し、カルテ形式で残す「たけとみすまいのカルテ(仮称)」の作成を通して、地域の文化遺産を再確認する。						
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し(又は利用)回数等			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	「たけとみすまいのカルテ(仮称)」を閲覧・利用することで、地域に暮らすことの誇りを持つ住民の割合を増やす。(70%の住民が誇りを持つことを目指すため、閲覧回数を166戸の7割である116戸を超える120回とした)						
目標値：	平成 28 年度	0 (回)	⇒	平成 30 年度	120 (回)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	(回)		(回)	0 (回)		(回)	(回)
事業⑥：	文化遺産を活用した具体的なマネジメント方法 検討(試行)	実施団体：	竹富島未来づくり実行委員会				
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度				
事業概要：	竹富島の伝統的な建築等の技術継承に関するワークショップを実施し、修復事業で使用する伝統技術(茅葺・瓦葺・グック積等)と材料調達を調査するとともに、保存物件の補修や伝建事業を支える人材を養成する。						
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	3年間を通じての事業に参加し、主に竹富島の文化遺産である建築に係る伝統技術を継承できる知識を身に着けた50代以下の人数						
目標値：	平成 28 年度	0 (人)	⇒	平成 30 年度	10 (人)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	(人)		(人)	0 (人)	0 (人)	(人)	(人)

